



Culture City of East Asia 2022 OITA



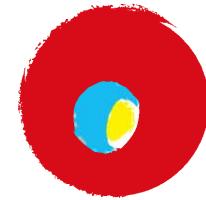
東アジア文化都市
2022大分県

Culture City of East Asia 2022. OITA

事業報告書

東アジア文化都市2022大分県
実行委員会

大分県大分市大手町3丁目1番1号
(大分県企画振興部芸術文化スポーツ振興課内)



東アジア文化都市
2022 大分県

Culture City of East Asia 2022, OITA

事業報告書



創造が、

Culture City of East Asia 2022 OITA



002



©JASPAR, Tokyo, 2022 and Chiharu Shoda
撮影: フィリップ・マン
くまの香京世界旅行会議



県民総参加で沸いた、たくさんの創造と伝統の継承——
2022年、おんせん県の熱い情熱の記録をたどって。

003

Contents

005-主催者あいさつ

007-開催概要

008 東アジア文化都市とは

011-事業概要

012 東アジア文化都市 2022 大分県

014 開催趣旨

016 交流都市

019-事業報告

019 プレ事業

029 閉幕事業

035 都市間交流事業 コア事業

049 都市間交流事業 連携事業

083 関連企画

088 交流都市イベント

091 閉幕事業

097-共同宣言

099-資料

100 広報

110 実施体制

113 事業収支

114 評価分析

主催者あいさつ



東アジア文化都市2022大分県
実行委員会 委員長
大分県知事

広瀬勝貞
Katsusada Hirose

2022年に取り組んだ「東アジア文化都市2022大分県」が、12月末をもって閉幕しました。本事業に参加した県民の皆様、交流都市の中国温州市、济南市、韓国慶州市の皆様、そしてすべての関係者の皆様に対し、心より厚くお礼を申し上げます。

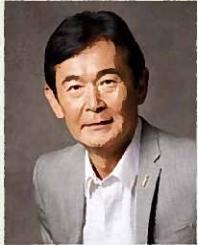
本事業の実施は、コロナ禍の中ということで、人の往来が制限され、イベントの実施も常に困難と隣り合わせでしたが、知恵を出し工夫しながら、県民総参加で大分の多彩な文化を楽しんでいただけるよう取組を進めてきました。

5月の開幕式典では、世界的ピアニスト、マルタ・アルゲリッチさんによる記念演奏を実施するとともに、8月からはコア事業が本格的に始まりました。混浴温泉世界、大分アジア彫刻展、DRUM TAOなど、大分を代表する芸術文化が、東アジア文化都市事業と融合することで、これまでになかった特別なイベントとして実現しました。さらに、県内の芸術文化団体が、音楽、美術、書道、ダンスなどの様々な分野で中国、韓国との交流を行うなど、草の根交流も着実に進展しました。

このように、2022年は大分県の芸術文化の情熱が各地で沸き上りました。この情熱を一過性のものとすることなく、新たに芽吹いた、温州市、济南市、慶州市との絆を大切にしながら、芸術文化による国際交流や相互理解を推進するとともに、芸術文化の持つ創造性を活かした産業振興にも取り組むことで、都市の持続的な発展につなげていきたいと考えています。

大分県はこれからも、東アジアとの相互交流を末永く重ね、芸術文化の楽しみや感動を分かち合っていきながら、県立美術館と県立総合文化センターとを合わせた芸術文化ゾーンを核にして、「創造県おおいた」をさらに前に進めてまいります。

主催者あいさつ



文化庁長官
都倉俊一
Shunichi Tokura

大分県にて開催された2022年の東アジア文化都市が成功裏に終了したこと、誠に喜ばしく思います。大分県をはじめ、多くの関係者のご協力・ご尽力に心より感謝を申し上げます。

東アジア文化都市は2014年から開始され、日中韓それぞれの都市が互いの豊かな文化芸術を発信し、交流することで、三か国の友好協力関係の深化を図る事業です。また、選定された都市が、その文化的特徴を活かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、都市自体の発展も目指しています。

大分県では、「創造県おおいた」のスローガンを掲げ、この一年県民の皆様総参加のもと、中国の温州市、济南市、韓国の慶州市と連携しながら、東アジア文化都市事業に取り組んでこられました。それは、文化の力、大分県の魅力の再認識というだけではなく、日中韓三か国に共通する文化や価値観の発見・再確認につながったのではないかでしょうか。

「東アジア文化都市2022大分県」は閉幕しましたが、大分県の魅力が日中韓だけでなく世界に発信されていくとともに、東アジア文化都市の取組を通して薫かれた文化の種たちが各地で花開き、日中韓三か国での文化交流が一層深まっていくことを期待しております。

開催概要

2022
Culture City of
East Asia
OITA

東アジア文化都市とは

「東アジア文化都市」は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、それぞれの都市で芸術文化や伝統文化、多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を相互交流を行いながら実施するものです。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、芸術文化はもとよりクリエイティブ産業や観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として持続的に発展することも目的としています。

これまでの開催都市

2014

日本 横浜市
中国 泉州市
韓国 光州広域市



2015

日本 新潟市
中国 青島市
韓国 清州市



2016

日本 奈良市
中国 寧波市
韓国 济州特別自治道



2017

日本 京都市
中国 長沙市
韓国 大邱広域市



2018

日本 金沢市
中国 ハルビン市
韓国 釜山広域市



2019

日本 豊島区
中国 西安市
韓国 仁川広域市



2020-2021

日本 北九州市
中国 揚州市
(2020年)
紹興市・敦煌市(2021年)
韓国 順天市



2022

日本 大分県
中国 温州市
韓国 濟州市
韓国 順天市



2022年 大分県が「東アジア文化都市」国内都市に選定

2021年8月30日(月) 開催場所／リーガロイヤルホテル小倉(福岡県北九州市)



8月27日、2022年の東アジア文化都市の国内都市を大分県に決定したことが文化庁より発表されました。8月30日に北九州市で開催された「第12回日中韓文化大臣会合」において、中国の温州市・済南市、韓国の慶州市とともに大分県が2022年の東アジア文化都市に正式に決定され、萩生田光一文部科学大臣(当時)から「2022年東アジア文化都市選定証」を授与されました。

実行委員会発足

2021年12月7日(火)

開催場所／ホテル日航大分オアシスター
孔雀の間(大分市)



日本の東アジア文化都市としては初めて「県」単位での取組となりました。東アジア文化都市2022大分県の開催に向け、県内の芸術文化、経済、観光団体、メディア等が連携した実行委員会を設立し、事業の実施に本格的に着手しました。

機関長会議

2021年12月21日(火)

開催場所／レンブラントホテル大分 竹の間
(大分市)



中国・韓国の東アジア文化都市の代表者がオンラインで一堂に会し、各都市の特長や歴史、各都市の事業取組について共有しました。また、本事業の取組を通じて、文化交流のみならず観光など産業面でも協力し、共に持続可能な都市づくりを進めることを確認しました。

「デンデンンドウ～故郷の記憶」

時々ふつと思いつく「デンデンンドウ～」と歌う大分の合唱団「マトリカリーコール」の澄んだ声。10月に東アジア文化都市事業の一つとして企画された“宇宙を文化スル「月と星と宙のコンサート」”では、日本、中国、韓国の音楽家たちにより中国・温州市出身の作曲家 潘玺帆さんの新曲「旅人の故郷の記憶」が演奏されました。この曲は温州の童謡「叮叮当」をベースに作られた曲であり、世界で活躍する温州人にとって「デンデンンドウ」は故郷を思い出す心の歌だそうです。この曲が演奏された後、温かな拍手が作曲家の潘玺帆さんをはじめ、日中韓の音楽家たちに寄せられました。芸術文化を通じてその土地を知ることは、人を知ることであり、あらためて国を超えて人と人との絆が深まっていくことを感じました。東アジア文化都市の事業を通じて、各地の、その風土、四季から生まれる芸術に接し、各國の文化を知る一年となりました。東アジア文化都市事業は“これから”であり、この先、どんなふうに道が耕されて花が咲いていくのか。楽しみでなりません。

この原稿を書きながら、温州市の豊かな自然、風景が描かれている「旅人の故郷の記憶」のメロディーを思い出し、温州を訪れたくなりました。私にとって、この曲は東アジア文化都市の優しく温かな記憶を呼び起こしてくれる心の歌となっています。



アーモンド株式会社 代表取締役
松田 亜有子
AYUKO Matsuda



事業概要

2022
Culture City of
East Asia
OITA

東アジア文化都市2022大分県

大分県のこれまでの多彩な芸術文化活動が高く評価され、2022年の「東アジア文化都市」開催都市に大分県が選ばれました。2014年に始まった東アジア文化都市事業の開催都市として、都道府県単位での開催は大分県が初。県全体を一つの文化圏ととらえ、県内複数の自治体が一つになって様々な芸術や文化イベントを企画し、日中韓3か国による交流事業を一年かけて推進しました。

会期 2022年1月～12月

実施事業 158事業

実施事業数	都市間交流事業						計
	プレ事業	開幕事業	コア事業	連携事業	関連企画	閉幕事業	
6	3	8	121	15	5	158	

参加者数 54万人（オンライン参加を含む）

主催 東アジア文化都市2022大分県実行委員会、大分県、文化庁

会場 iichiko総合文化センター、大分県立美術館、別府国際コンベンションセンター（ピーコンプラザ）ほか県内各所・施設
温州市、济南市（中国）
慶州市（韓国）



開催テーマ

県民総参加で「おおいた」の文化を発信し、東アジアとの交流によって新たな文化を切り拓く

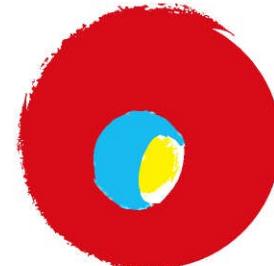
この開催テーマを掲げ、プレ事業・開幕事業・都市間交流事業（コア事業・連携事業）・関連企画・閉幕事業の5つの柱で事業を展開しました。

ロゴマーク

ロゴマークは、OITAの「O」を基盤に、東アジア各地域の文化が互いにリンクしている様子をカタチにしました。文化に対する情熱が渦巻き、広がっていくことを象徴しています。

色彩については、赤色が温泉を生むマグマを彷彿とさせ、文化を育むエネルギーや内なる情熱を表し、水色は海や空などの豊かな環境を、黄色は豊かな大地を意味しています。

ロゴマーク制作者
彫刻家 東京藝術大学名誉教授 深井 隆氏



東アジア文化都市 2022大分県

Culture City of East Asia 2022. OITA

開催趣旨

大分県は、豊かで美しい海と緑の山々、豊富な温泉や湧水など多様な自然に恵まれ、個性豊かな風土を形成してきました。古くは宇佐八幡文化、六郷満山の仏教文化が華ひらき、16世紀にはキリスト教文化が導入され、日本で初めて聖歌隊がつくられるなど、異文化を積極的に受け入れ融合しながら、固有の文化を創造する進取の気風に富んだ都市として発展を続けてきました。

このような自然と歴史を背景に、県内では各地で、特色ある文化財や独自の文化・風土が育まれてきました。全国で唯一の磨崖仏の国宝である白杵石仏やユネスコ無形文化遺産に指定された祭り、さらには神楽や踊りなどの多種多様な伝統芸能が脈々と受け継がれています。こうした文化は、人々の心を豊かにし、ゆとりと潤い、安らぎと生きがいをもたらしてくれます。

事業目標

1 「人」を育て活かす

県内各地の特色ある様々な文化に光をあて、交流の場に持ち込んで、文化に対する県民の情熱をさらに高めていきます。

2 「地域」を創造する

様々な交流を通じて、芸術文化の力を観光や産業にも活かす創造的な地域づくりに取り組みます。

3 東アジアの相互理解と 多様性の尊重に貢献する

文化の楽しみと感動を中国、韓国の創造都市の方々と分から合いながら、域内の相互理解と連携を深めます。

事業構成

事業名	実施期間	内容
プレ事業	2022年1月～5月	東アジア文化都市を県民に広く周知し、開催への機運を高めるため、プレイベントを実施
開幕事業	2022年5月22日(日)	東アジア文化都市2022大分県のオープニングイベントとして、開幕式典、交流行事、開幕慶行事を実施
都市間交流事業	コア事業	県内の特色ある芸術文化イベントをコア事業に位置づけ、中国、韓国の芸術文化団体やアーティストとの交流を織り交ぜながら、多彩なイベントを実施
	連携事業	県内の市町村や芸術文化団体と連携して、様々な公演やイベント等を開催するとともに、中国、韓国との文化交流を実施
関連企画	2022年5月～2023年3月	県内の各種団体と連携して、東アジア文化都市の取組と関連するイベントや企画を実施
閉幕事業	2022年11月6日(日)・7日(月)	県民総参加で取り組んだ東アジア文化都市2022大分県を締めくくる式典や歩行者天国など、芸術文化ゾーンを活用したイベントを開催

交流都市

温州市 [中国]

(おんしゅう／ワキンヂョウ)

Wenzhou

[人口] 約912万人 [面積] 11,784km²



中国の華僑の故郷であり、70万人以上の温州出身者が世界130か国・地域で活躍している。歴史悠久、風光秀麗で、国家重点風景名勝や国文化財が多く存在する。



济南市 [中国]

(さいなん／チーナン)

Jinan

[人口] 約920万人 [面積] 10,244km²



山東省の省都で黄河が市内を流れ、泉が豊富であることから「泉の都」と呼ばれてきた。自然と歴史が豊富なことから、国家歴史文化名城に指定されている。



慶州市 [韓国]

(けいしゅう / キョンジュ)

Gyeongju

[人口] 約25万人 [面積] 1,324km²



約1,000年に渡って新羅王朝の首都として栄えた古都。「石窟庵と仏国寺」や「慶州歴史遺跡地区」などがユネスコ世界文化遺産に登録されており、「屋根のない博物館」と呼ばれている。



事業報告 プレ事業



張強「動物先生」
(2014年 優秀賞)



事業報告 | プレ事業 1

大分アジア彫刻展 「紹介展」

“現代のかたち”

開催日／2022年1月13日(木)～2月10日(木)
会場／さいき城山桜ホール(佐伯市)
来場者数／10,905人
主催／大分アジア彫刻展実行委員会

020

澤田 志功
[Lunar Plant]
(2006年 大賞)



Ronald VENTURA
[ZOO KEEPER]
(2008年 優秀賞)



Sun BINDHANI 「IT Baby」
(2014年 優秀賞)



アジアの新進彫刻家の情熱にふれる

東アジア文化都市2022大分県の開催にあたり、県民への周知と機運を醸成するプレ事業の第一弾として、斬新な発想やデザインの数々に触れることができる「大分アジア彫刻展」の作品展示を実施しました。

大分アジア彫刻展は、大分県豊後大野市出身の彫塑家 朝倉文夫の業績を顕彰して、1992年に始まったアジアの新進彫刻家の登竜門と位置付けられる国際公募展。2年に1度、ビエンナーレ方式で開催しています。

今回は大分アジア彫刻展の過去の受賞作品を紹介。2006年に開催した第8回展大賞作品「Lunar Plant」や、第9回展優秀賞作品「ZOO KEEPER」など、フィリピンや中国、インド、日本の彫刻家によるこれまでの同展入選作品4点と、朝倉文夫の作品「居眠る猫」を多くの来場者が鑑賞しました。



朝倉文夫作
「居眠る猫」



021

〈inたけた〉川久保賜紀×遠藤真理×山中惇史 室内楽の午後
開催日／2022年1月23日(日)
会場／竹田市総合文化ホール グランツたけた 麻太郎ホール(竹田市)
来場者数／125人 主催／一般財団法人竹田市文化振興財団

事業報告 プレ事業2

第22回別府アルゲリッチ音楽祭 地域拠点コンサート



〈in ぶんごおおの〉宮田大&大萩康司スペシャルデュオ
開催日／2022年3月6日(日)
会場／豊後大野市総合文化センター エイトピアおおの 大ホール(豊後大野市)
来場者数／500人 主催／豊後大野市総合文化センター



写真すべて 佐藤洋 伸光

PROGRAM

(竹田市)
G.カッチャーニ(山中惇史編)：アヴェ・マリア
M.ラヴェル(山田武慈編)：亡き王女のためのパヴァーヌ
C.サンクサーンス：白鳥
G.カサド：戀愛の言葉
G.ジョシュワイン(ハイフェッツ編)：
「ボーキーとベス」より サマータイム
坂本龍一：メリー・クリスマス・ミスター・ローレンス
J.バーンスタイン(山中惇史編)：
「ウェスト・サイド・ストーリー」メドレー
F.メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 op.49

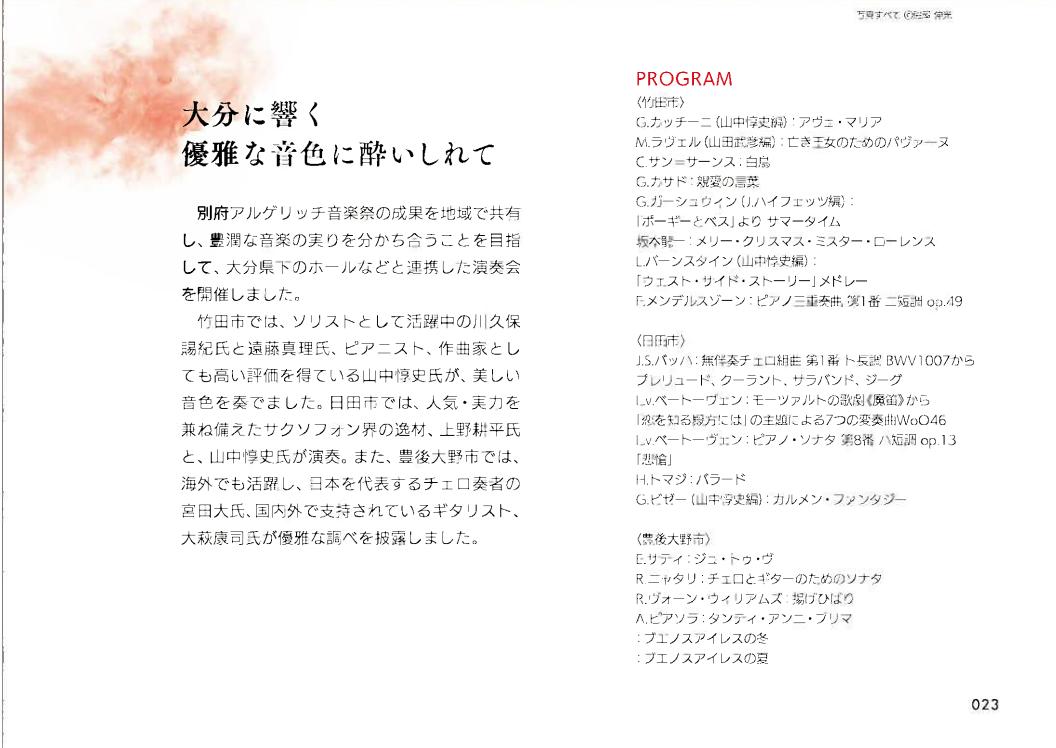
(日田市)
J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007から
ブリュード、クーラント、サラバンド、ジグ
J.V.ベートーヴェン：モーツアルトの歌劇《魔笛》から
「恋を知る様方には」の主題による7つの変奏曲 WoO46
J.V.ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調 op.13
「悲愴」
H.トマジ：バラード
G.ビゼー(山中惇史編)：カルメン・ファンタジー

(豊後大野市)
E.サティ：ジユ・トゥ・ヴ
R.ニコラリ：チェロとギターのためのソナタ
R.ヴィオーン・ウイリアムズ：揚げひばり
A.ビアソラ：タンディ・アンニ・プリマ
：フエヌスアイレスの冬
：フエヌスアイレスの夏

大分に響く 優雅な音色に酔いしれて

別府アルゲリッチ音楽祭の成果を地域で共有し、豊潤な音楽の実りを分かち合うことを目指して、大分県下のホールなどと連携した演奏会を開催しました。

竹田市では、ソリストとして活躍中の川久保賜紀氏と遠藤真理氏、ピアニスト、作曲家としても高い評価を得ている山中惇史氏が、美しい音色を奏でました。日田市では、人気・実力を兼ね備えたサクソフォン界の逸材、上野耕平氏と、山中惇史氏が演奏。また、豊後大野市では、海外でも活躍し、日本を代表するチェロ奏者の宮田大氏、国内外で支持されているギタリスト、大萩康司氏が優雅な調べを披露しました。





事業報告 | プレ事業 3

OPAMライトアップイベント

開催日／2022年1月31日(月)
会場／大分県立美術館、iichiko総合文化センター(大分市)
来場者数／約13,000人(Youtube視聴者数)
主催／東アジア文化都市2022大分県実行委員会



624

春節色に染まる芸術文化の拠点

日本と中国は、2022年に国交正常化50周年を迎えた。東京都内で日中友好促進と新型コロナウイルス感染症の早期収束を祈って「東京タワーレッドライトアップ」や点灯式が行われました。

大分県では、同イベントと連携し、大分県立美術館と向かいにあるiichiko総合文化センターとを赤色でライトアップ。あたりは幻想的な雰囲気に包まれました。

当日の様子は、東京の会場と大分を中継で結んで、YouTubeや中国本土の地上波でライブ配信されました。また、iichiko総合文化センター1階アトリウムでは、別府アルゲリッテ音楽祭ゆかりの若手演奏家で編成したトリオによる特別演奏(瀧廉太郎「花」)が披露されました。



点灯式



「東京タワーレッドライトアップ」の点灯式で生配信されたDRUM TAOによる3D太鼓パフォーマンス



ライトアップされたiichiko総合文化センターと大分県立美術館

025



世界的なファッショントレーナー コシノジュンコの過去最大規模の展覧会

世界的なファッショントレーナーであり、アートクリエイターでもあるコシノジュンコ氏。創造の原点となる大阪・岸和田の高校時代に描いたデッサンをはじめ、最年少の19歳での装苑賞受賞作品、大阪万博のユニフォーム、2012年から手掛ける大分県の和太鼓演奏集団「DRUM TAO」の舞台衣装などを、実物の衣装やデザイン画、映像により紹介。コシノジュンコ氏の多岐にわたる創作活動の、まさに「原点から現点」をたどることができる作品群が、新たな創造を繰り広げる活動の全貌として、ダイナミックに展開されました。ファッションを通じてコシノジュンコ氏が創出した「対極」という世界観が、今回の展示で来場者の心に強く刻み込まれました。



関連イベント

トークイベント 「コシノジュンコ「原点から現点」」

2022年4月15日(金)
会場／大分県立美術館 1階 アトリウム
登壇者／コシノジュンコ

JUNKO KOSHINO × DRUM TAO Presents OPAM ARTS LIVE 2022

2022年4月23日(土)
会場／大分県立美術館 1階 アトリウム
出演者／和太鼓エンターテイメント DRUM TAO
ダンサー 西脇教博ほか
総合プロデュース／コシノジュンコ×フランコドラオ



トークイベント 「コシノジュンコ×DRUM TAO」

2022年4月24日(日)
会場／大分県立美術館 1階 アトリウム
登壇者／コシノジュンコ
藤高郁夫(DRUM TAO代表・演出家)



学芸員によるギャラリートーク

2022年4月16日(土)、
5月10日(水)・11日(水)・17日(火)
18日(水)・21日(土)・22日(日)・23日(月)
24日(火)・25日(水)・26日(木)・27日(金)
会場／大分県立美術館 1階 展示室A



トークイベント 「コシノジュンコ×加藤登紀子」

2022年5月13日(金)
会場／大分県立美術館 1階 アトリウム

会期中は、コシノジュンコ氏に関する様々な関連イベントも開催。10年以上にわたり舞台衣装を手掛けるDRUM TAOとダンサーの西脇教博氏らとのコラボライブや、かねてより親交が深い歌手の加藤登紀子氏や杏子・Kyoko・氏とのスペシャルなトークイベントも実現しました。

トークイベント 「コシノジュンコ×杏子・Kyoko・」

2022年5月29日(日)
会場／大分県立美術館 1階 アトリウム

歩き始めれば景色は変わる

国民文化祭、ラグビーワールドカップと続き、活力がみなぎった大分の芸術・文化・スポーツ活動がコロナ禍の中で中断されようとしていました。その時に「東アジア文化都市2022大分県」が開催され、以前の流れを蘇らせ、継続させたことがまず大きな成果でした。そして、それぞれのイベントが他分野とのコラボなど新しい企画での取組が行われ、切り口の新鮮さと重厚さはこれからの活動に役立つものになると思われます。

県民文化祭や開幕の日舞なども、これまで一味違ったいろいろな組み合わせが行われましたし、閉幕間連行事の創作舞台「ムジカと生きる」では、組織面でも大分県芸術文化スポーツ振興財団と大分県芸術文化振興会議との合同による初めての舞台で、県内各種の芸術団体の総合力を発揮したものとなりました。

また、この「東アジア文化都市2022大分県」では様々な収穫がありました。一つは、中国・韓国との文化交流により、つながりが深くなったことです。宇佐市の文化協会や新しく生まれた書道の若者とベテランの合同の会をはじめ、多くの団体が慶州市と深く交流しました。そして、これらの新しい形の結びつきが若者の感性を刺激し、次の世代へのバトンタッチの起点になったことも大きな収穫でした。

今年生まれたこの動きは、一年で終わらせるのではなく、今後も東アジア文化交流のレガシーとして、継続していかなければと思っています。

戸口勝司
NPO法人 大分県芸術文化振興会議
理事長
Katsushi Toguchi



事業報告
開幕事業

事業報告 開幕事業

東アジア文化都市2022大分県 開幕式典

大分県に根付いている芸術や音楽、伝統といった文化の数々。2022年の一年間、全国へ、世界へと披露する場としてこの事業の準備をしてきました。いよいよオープニングセレモニーの開幕です。

開催日／2022年5月22日(日)
会場／別府国際コンベンションセンター(ピーコンプラザ) フィルハーモニアホール(別府市)
来場者数／711人
主催／東アジア文化都市2022大分県実行委員会、大分県、文化庁

PROGRAM

[開幕式典]

- ・オープニング
- ・主催者あいさつ
- ・各都市あいさつ
- ・開幕宣言

[開幕記念演奏]

- ・マルタ・アルグリッチ
- 曲目：R.ショーマン／
ピアノ五重奏曲
愛の魔力 op.44から第1楽章
ピアノと弦楽四重奏
(2本のヴァイオリン、
ヴィオラ、チェロ)のために
書かれたロベルト・ショーマンの
代表的な室内楽作品を演奏



実行委員長 広瀬勝貞 大分県知事



都道府一 文化庁長官



中国 張振豐 溫州市長



広報アンバサダー ハローキティによる開幕宣言



中国 常龍成 济南市委宣伝部長



韓国 宋洛榮 爰州市長



オープニング動画



開幕記念演奏を披露したマルタ・アルグリッチ氏

日中韓の交流と文化を深める祭典のはじまり

開幕式典の会場となったのは、大分県を代表する泉都、別府市にあるピーコンプラザ。約700人の参加者が足を運びました。

開幕式典では、主催者を代表して都倉俊一文化庁長官より「歴史・文化ともに、多種多様な人や文化を受け入れてきた大分県での開催は、東アジア文化都市にふさわしい都市であり、温州市、济南市、慶州市との文化交流を通じてさらなる飛躍を遂げることを期待しています」と、ビデオメッセージであります。また、実行委員長の廣瀬勝貞大分県知事は「東アジアの相互理解や連帯感の形成を促進し、多くの県民の参加により大分県の文化活動への情熱をさらに高めていきたい。この事業による交流を絆や文化にも生かし、創造的な地域づくりにつなげます」と意気込みを宣言しました。

続いて交流都市3か国の紹介VTRとともに、中国の張振豐温州市長、戴能成濟南市委宣伝部長、韓国の朱洛榮慶州市長が映像にて抱負を述べました。

また、東アジア文化都市2022大分県の広報アンバサダーに就任したサンリオキャラクターの「ハローキティ」が着物姿でお目見え。会場の参加者が一体となって開幕宣言を行いました。

開幕記念演奏では、世界的ピアニストのマルタ・アルグリッチ氏が清水高師氏(ヴァイオリン)、小峰航一氏(ヴィオラ)らとピアノ五重奏曲を演奏。力強く、そして軽やかな演奏は会場全体を魅了し、開幕にふさわしい豪華なステージとなりました。

事業報告 開幕事業

さまざまな文化に五感でふれる 芸術団体交流行事・文化体験ブース

開催日／2022年5月22日(日)
会場／別府国際コンベンションセンター(ピーコンプラザ) コンベンションホール、エントランスホール(別府市)
来場者数／1,848人
主催／東アジア文化都市2022大分県実行委員会、大分県、文化庁

会場となったピーコンプラザ内では終日にわたって「芸術団体交流行事」と「文化体験ブース」を実施。芸術団体交流行事では特設ステージが設置され、日本、中国、韓国の芸術文化に関連する発表が行われました。

PROGRAM

〔芸術団体交流行事〕

- 由布はさま太鼓
- 坐、碧空、祈り、飛翔、挾間ヤンソレ
- 温州市芸術団体
ダンス『対鳥』、人形劇『歓慶盛世』
- 濟南市芸術団体
『奇跡』、中国の楽曲メドレー
『泉のせらぎ』、
世界の名曲メドレー
『花の香りが漂う五大州』

- 大分県能楽連盟
竹生島、松岩、熊坂
- 大分県長唄連盟／
APU長唄三味線サークル
長唄 元禄風「花見踊」
- 日田祇園囃子保存会
八重桜 ほか
- 大分高等学校書道部／
大分南高等学校書道部
書道パフォーマンス

- 鹿児島市芸術団体
花郎、幸如楽、Beautiful慶州
- 津久見櫻の実少年少女合唱団
春よこい、春の小川、臘月夜、
Believe、明日という日が、
いのちの歌、元子踊り ほか
- 三浦一馬＆ウェールズ弦楽四重奏団
ピアソラ：
デカリシモ／オブリヴィオン／
天使の死 ほか
デビュッシー：
弦楽四重奏曲ト短調より第2楽章

芸術団体 交流行事



由布はさま太鼓

平成8年に結成した和太鼓クラブ。
5曲を力強く演奏しました。

大分県能楽連盟

3演目を披露。大人から子どもまで、貴重ある舞を披露。



大分県長唄連盟／APU長唄三味線サークル

大分県長唄連盟は、県内外で数多くの公演を行うほか、その技術のひとつ、様々な国籍の学生が経験に加わるAPU長唄三味線サークルとともに、日本の伝統芸能である長唄と三味線を披露。

（出典：別府市）



日田祇園囃子保存会 大分高等学校書道部／大分南高等学校書道部

およそ300年の伝統を誇る大分県日田市の夏の風物詩「日田祇園囃子」の囃子の音色に合わせて、校歌が演らるる高校生書道部がパフォーマンスを繰り広げました。



津久見櫻の実少年少女合唱団

幼稚園児から大学生まで60名以上が所属する県内有数の少年少女合唱団。「春よこい」に始まり、「Believe」では手話を付け、また地元津久見市の伝統芸能「元子踊り」では舞も披露されました。



三浦一馬＆ウェールズ弦楽四重奏団

若手実力派のバンドネオン奏者として各方面から注目を集める三浦一馬氏と、世界的なチリスト ミッシェル・マイスキー氏共はじめ数多くの芸能人と共に演奏を実現したウェールズ弦楽四重奏団との優美でクラシカルな音楽を堪能。



北村直登

ボップな色づかいのオリジナリティあふれる作風で動物を強く北村直登の世界観をライブペインティングとワークショップで表現。



竹細工ワークショップ

大分を代表する工芸品である竹細工を使った「竹籠制作」。竹工芸士のレクチャーを受けながら、しなやかで柔軟のある竹の感触を確かめながら読み進めました。



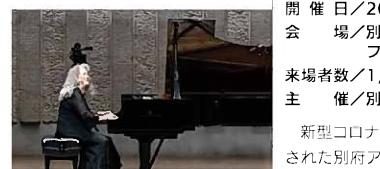
中韓交流都市PRブース



大分県紹介ブース

- エコパーク
- ジオパーク
- 世界農業遺産
- 宇宙港 など

開幕関連行事



第22回別府アルゲリッチ音楽祭「室内楽コンサート」

開催日／2022年5月22日(日)
会場／別府国際コンベンションセンター(ピーコンプラザ)
フィルハーモニアホール(別府市)
来場者数／1,005人
主催／別府アルゲリッチ音楽祭実行委員会

新型コロナウイルスの影響により延期・中止が続き、3年ぶりに開催された別府アルゲリッチ音楽祭。マルタ・アルゲリッチ氏の登場を待ちわびたファンを前に、バッハ「パルティータ第2番ハ短調BWV826」や、ヴァイオリニストの清水高師氏とともに、ショーマン「ピアノ五重奏曲 変ホ長調 op.44」をのびやかに奏でました。至高の調べに会場は歓喜に満ちました。

交流都市式典

中国 溫州市



開催日／2022年4月19日(火)
会場／溫州大劇場

「宋の音韻・箇の風雅－温州で共に世界を見渡そう」をテーマに、東アジア文化都市の開幕を祝う開幕式典が開催されました。式典では、省政府関係者等のあいさつのほか、日中韓の交流都市からの祝辞、文化芸術公演などが行われました。本県からは、県知事による祝辞動画に加え、食、自然、芸術など大分県の魅力を紹介する動画が、現地会場にて放映されました。

中国 濟南市

開催日／2022年4月26日(火)
会場／オンライン

済南市の東アジア文化都市活動の開会を宣言する開幕式典が開催されました。式典では、省政府関係者等のあいさつのほか、日中韓の交流都市から祝辞が寄せられました。本県からは、知事による祝辞動画に加え、「豊の国ゆふいん源流太鼓」の公演動画が、現地会場にて放映されました。



韓国 慶州市

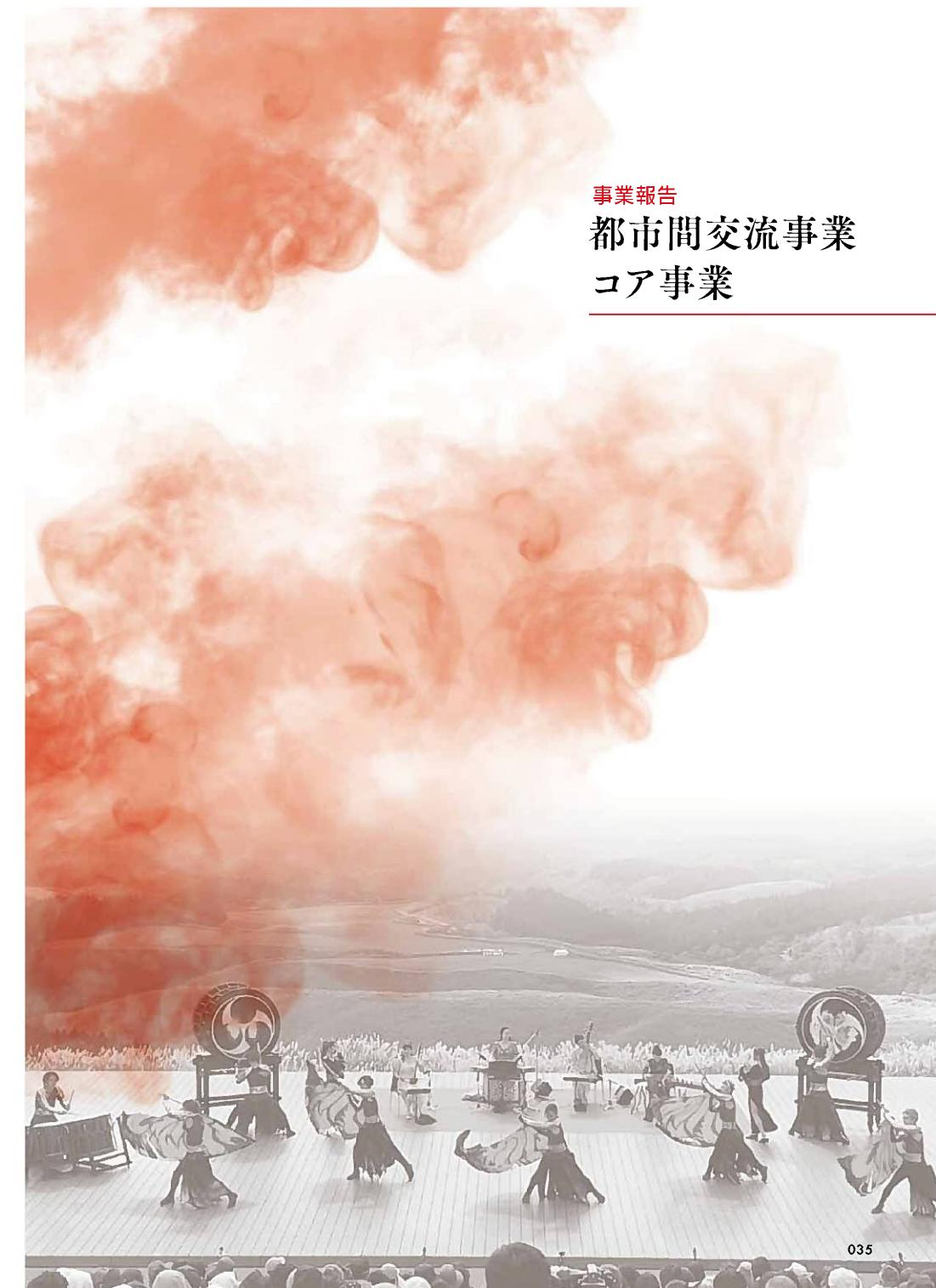


開催日／2022年3月25日(金)
会場／月精橋(ウォルジョンギョ)一帯

「文化で始まる慶州、東アジアをつなぐ平和」をテーマに、東アジア文化都市の開幕を祝う開幕式典が開催されました。日中韓の交流都市からの祝辞のほか、文化芸術公演などが行われました。本県からは、県知事による祝辞動画に加え、食、自然、芸術など大分県の魅力を紹介する動画、大分県民およそ30名によるメッセージ動画が、現地会場で放映されました。

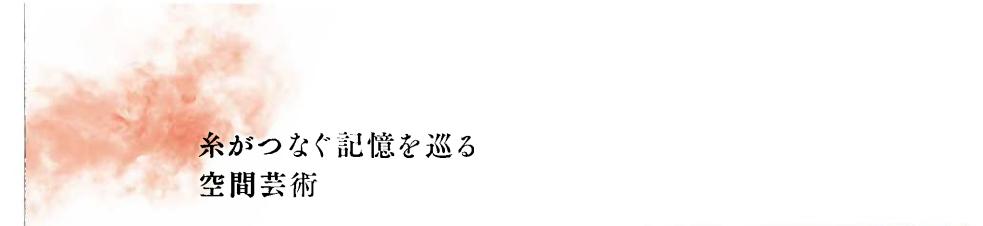
事業報告

都市間交流事業 コア事業





開催日／2022年8月5日(金)～10月16日(日)
 会場／別府市中心市街地(新中華園ビル 1階、BEP.Lab.ほか)(別府市)
 来場者数／16,274人
 主 催／混浴温泉世界実行委員会、
 東アジア文化都市2022大分県実行委員会



糸がつなぐ記憶を巡る 空間芸術

別府の大地から湧き立つ湯煙を見て、強い生命力を感じた—。

ベルリンを拠点に国際的に活躍する現代美術家の「塩田千春」。今回の個展では、別府に生きる人々の“記憶”から着想を得て、今は機能していない卸問屋や中華料理店だった店内に宿る記憶を糸で紡ぐ大規模な2つのインсталレーションが発表されました。

元卸問屋「BEP.Lab」では、「循環」というテーマを、縦横無尽に空間を絡み合う白い糸と、それをつたって落ちる水滴で表現。「新中華園ビル1階」では、中華料理店時代に使っていたテーブルや食器を赤い糸で天井から下りるし、かつての店の活気を彷彿とさせる躍動感を表現しました。生と死、存在、記憶など人間の根源的な問いをテーマにした塩田千春氏の作品は、その場所の「記憶」でありながら、見る人それぞれに残る思い出を呼び起こすもので、来場者は、繊細かつインパクトのある空間芸術を堪能することができました。



Chiharu Shiota Berlin 2020 Photo by Szuha Meng

関連イベント

塩田千春展『巡回記憶』開幕記念トーク
 開催日／2022年8月5日(金)
 収録／塩田千春
 進行／山出淳也(混浴温泉世界実行委員会
 総合プロデューサー、Yainade Art Office 株式会社 代表取締役)
 会場／別府フルーバード会館 3階 フレックスホール(別府市)





中韓のアーティストが描く大分の印象

国内外のアーティストが町や地域に滞在し、人々との交流の中で様々なインスピレーションを受けながら創作活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」。本事業では韓国、中国の交流都市出身のアーティストを別府市に招き、それぞれ約1か月にわたり、地域住民や地元アーティストとの交流を深めながら、作品制作に取り組みました。作品完成後には、「滞在成果展」を開催し制作工程と完成品を展示しました。

肥州市出身のキム・キボム氏は、滞在中に開催したワークショップや訪問先の施設利用者などが描いた作品と自身が描いた作品を組み合わせ、「10年後の記憶」という作品を制作。キム氏は、滞在中に感じた別府市や大分県内の印象について、溶岩や湯けむりを黄、山を緑、海を青で表現。さらに、強く印象に残った韓国にはない黒い外壁の家にヒントを得て、文化を通じた国際交流や相互理解、価値観の共有を進める東アジア文化都市事業の取組をたくさんの色を混ぜ合わせてできる黒で表現しました。

温州市出身のチェン・チュオイー氏は、コンクリートと竹を使い、異なる性質の2つの素材を組み合わせることで、別府の規則的な町並みから感じた「冷たさ」と、別府に暮らす人々の「温かさ」の対比を、「別府印象」というタイトルで制作。初めて扱った竹は、別府市の竹芸家のこじまちから氏に手ほどきを受けました。

【肥州市】KIM KIBUM

制作作品／絵画(作品テーマ「10年後の記憶」)
滞在中に開催したイベントや浦江児童館(佐伯市)、すぐすぐ・いきいき村(大分市)の施設利用者とコラボレーションした作品を制作。
地域交流／2022年9月20日(火)ワークショップ(浦江児童館)、23日(金)ワークショップ(別府市:アソビlab)、23日(金)～25日(日)オープン落書きDay(アソビlab)、26日(月)ワークショップ(すぐすぐ・いきいき村)、10月8日(土)まつばらマルシェワークショップ(別府市:松原公園)、9日(日)・10日(月)オープンスタジオ(アソビlab)

【温州市】CHEN ZHUOYI

制作作品／竹を使用した作品(作品テーマ「別府印象」)
地域交流／2022年11月9日(水)県内アーティスト等との交流(大分市:大分県立芸術文化短期大学、豊後大野市:オレクトロニカアトリエ、朝倉文夫記念館)、27日(日)オープンスタジオ、アーティストトーク(アソビlab)



関連イベント

アーティスト・イン・レジデンス 滞在成果展
開催日／12月10日(土)～18日(日)
会場／トキハ別府店 西館2階(別府市)
来場者／304人
完成した作品を展示。1か月の制作の成果を多くの人に鑑賞していただきました。





温州市 | 開催日 / 2022年10月15日(土)~11月13日(日)
会場 / 温州博物館(中国温州市) 来場者数 / 15,674人

慶州市 | 開催日 / 2022年9月16日(金)~10月10日(月)
会場 / 慶州世界エキスポ公園内文化センター(韓国慶州市)
来場者数 / 17,877人

主催 / 大分アジア彫刻展実行委員会、
東アジア文化都市2022大分県実行委員会



大分に集った新進気鋭作家の彫刻が初めて海外へ

近代日本彫刻の基礎を築いた大分県出身の彫塑家 朝倉夫の偉業を顕彰し、ビエンナーレ形式で開催している「大分アジア彫刻展」。過去の入賞作品を展示する紹介展を海外で初めて開催しました。アジア各国の新進彫刻家の作品が鑑賞できる貴重な機会とあって、各会場とも連日、多くの方が来場し、豊かな表現力を持った個性あふれる作品に見入っていました。



下平 純明
『夜』(2016年 大賞)



Pattarajarn FAKPHOU 「Quiet Place」(2020年 優秀賞)

李 魏 「回廊」(2010年 優秀賞)



開催日／2022年10月22日(土)・23日(日)
会場／野外劇場 TAOの丘(竹田市)
来場者数／2,182人
主催／一般財団法人TAO文化振興財団、
東アジア文化都市2022大分県実行委員会



久住高原の秋空に響くアジアの音色

国内にとどまらず、海外にも活動を広げ、世界が認め
る和太鼓演奏集団「DRUM TAO」。阿蘇くじゅう国立公
園内の標高1,036mに位置する舞台「TAOの丘」で雄大
な阿蘇五岳を借景に、DRUM TAOと中国・韓国の交流
都市から招いた伝統楽器奏者とのスペシャルコラボレー
ションが実現。青空にこだまする幽玄な音色と迫力の和
太鼓に酔いしれる空間は客席とも一体化し、連帯感と感
動に包まれるひとときでした。

出演者同士も、「音楽により言葉の壁を超え、“友情”を
育むことができた。また共演しよう」と熱い約束を交わ
しました。

〈出演アーティスト〉

日本：DRUM TAO
中国：中国華樂團(鄭宇／揚琴 王昌／二胡 鄭捷／琵琶 姜小青／古箏)
中国：許可／二胡 山本祐ノ介／チェロ
韓国：慶州市立新羅鼓吹隊(サムルノリ、ソゴ舞)





事業報告 コア事業 5

日中韓現代作家交流展 in OITA 2022

開催日／2022年10月26日(水)～11月6日(日)
会場／大分県立美術館 1階 アトリウム 及び 3階 ホワイエ(大分市)
来場者数／16,064人
主催／大分県民芸術文化祭実行委員会、
東アジア文化都市2022大分県実行委員会、大分県、文化庁



044



それぞれの地域の風土と文化を デザインで体现

「都市」「生活」「交流」をテーマとし、大分県在住の芸術家や中国・韓国の現代作家らが手掛けた作品から、大分の美術状況の「今」と多様化する現代アートの侧面を紹介する「日中韓現代作家交流展」。

会場となった大分県立美術館1階アトリウムには、社会的メッセージを込めた映像や立体など、中国・韓国の現代作家の作品とともに、大分を拠点に活動する若手現代作家(安部沙保里氏、遠藤ももこ氏、オレクトロニカ、金村孝之氏、ザ・キャビンカンパニー、北村直登氏、野村菜美氏)の作品が競演しました。3階ホワイエでは、県内の伝統工芸品として発展しつつ、現代的な造形作品としても国際的な注目をみせる大分県在住の竹工芸家(杉浦功悦氏、中臣一氏、横山修氏、米澤二郎氏)の作品が展示されました。作品の鑑賞や作家との交流を通して、国際交流と相互理解、価値観の共有を進めました。

関連イベント

トークイベント カイコウ-Encounter Our Lives-

開催日／2022年11月3日(木)
登壇者／安部沙保里、オレクトロニカ、金村孝之、
ザ・キャビンカンパニー、北村直登、野村菜美
来場者数／81人



ギャラリートーク

開催日／2022年11月5日(土)
オンライン／中韓作家：ツァオ・フェイ(中国)、ホン・ソンミン(韓国)
登壇者／竹工芸家：杉浦功悦、中臣一、横山修、米澤二郎
来場者数／35人



北村直登「東アジア文化都市(大分県、福岡市、済州市、長崎市)」2022

金村孝之「すべり台の下の囲まれた大地」2019

045



事業報告 | コア事業 6

別府アルゲリッチ音楽祭 シンポジウム

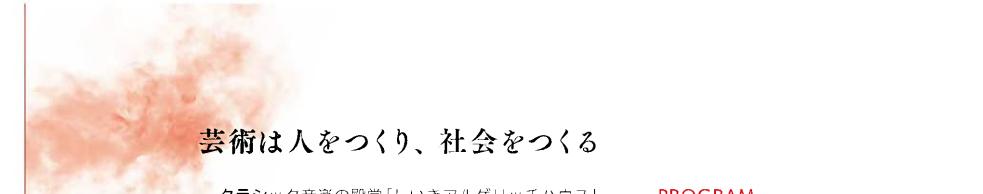
「Change The World~新しい社会の創造にむけて~」

開催日 / 2022年12月3日(土)

会場 / しいきアルゲリッチハウス(別府市)

来場者数 / 199人(オンライン69人)

主催 / 公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団、
東アジア文化都市2022大分県実行委員会



芸術は人をつくり、社会をつくる

クラシック音楽の殿堂「しいきアルゲリッチハウス」において、芸術文化による新しい社会の創造をテーマに開催された「別府アルゲリッチ音楽祭シンポジウム」。

第1部では、艶やかで生き生きとした音色を奏でる気鋭の若手サクソフォン奏者 上野耕平氏の演奏で会場を盛り上げていただきました。第2部では、芥川賞作家でクラシック音楽にも造詣が深い、平野啓一郎氏による基調講演を開催。平野氏は、自身の大分県での思い出やマルタ・アルゲリッチ氏とのつながり、音楽や文学が与えてくれる力を都市同士で共有し、発展させていくことの重要性などを語りました。第3部のパネルディスカッションでは、(公財)文字・活字文化推進機構 町田智子氏の司会のもと、3名のパネリストにより、別府アルゲリッチ音楽祭が始まった経緯や大分県でこの音楽祭が行われる意義、コロナ禍を経験し、一流の生演奏に触れることが大切さなど、活発な意見交換が行われました。芸術文化の役割や音楽祭の意義など、芸術活動の本質について深く考える時間となりました。

PROGRAM

サクソフォン・ソロ・リサイタル
上野耕平(サクソフォン)

基調講演「今、芸術に期待し得ること」
平野啓一郎(小説家)

パネルディスカッション

「コロナ後の“新しい社会の創造”に向けた音楽など芸術文化の役割と活用について」

- モダレーター
町田智子(公財)文字・活字文化推進機構 専務理事、日本ニュース時事能力検定協会 理事)
- パネリスト
山内千裕(日本生命保険相互会社 副会長)
大津良夫((公財)水戸市芸術振興財団 常務理事、水戸芸術館 副館長)
伊藤京子((公財)アルゲリッチ芸術振興財団 副理事長、別府アルゲリッチ音楽祭 総合プロデューサー)



基調講演 平野啓一郎氏



サクソフォン・ソロ・リサイタル 上野耕平氏



パネルディスカッション

After talk 03

2022
Oita

Column

別府の湯煙のように 循環し続ける人々の記憶

別府の大地から湧き出る湯気を見て、「大地は生きているんだ」と、その生命力に感動して、人間中心の生活から離れようと思ったんです——。

初めて草本商店に入った時に、そこに人々の思い出や記憶がたくさん詰まっていると感じて、ここで展示をしたいと強く思いました。部屋全体を覆う、湯煙を想像して使った白い糸から水がボタボタと垂れる様を見て、「これは雨漏りなのか」「水は、どこから出ているのか」「不思議だな」と思うところから「どういうコンセプトでこのアーティストは作品をつくったのだろう」と、その世界に入ってもらえば、「アートっておもしろい」というところにつながるのではないかと思います。

新中華園ビルは、コア事業の「巡る記憶」のタイトルにぴったりの場所でした。テーブルだったり、お皿だったり、中華料理店が現役だったころのものが捨てられずにずっとそのままになっている様子に惹かれ、赤い糸でつないで作品にしました。それを見た当時のオーナーの方から「ここが生き返ったように見える」と言われ、生きている状態を表現したかったので、本当に嬉しく思いました。

現代美術は「難しい」とか「わからない」とか言われるのですが、ごく普通の日常を語っていることが多いです。それに少し興味を持つことで、普段の生活にユーモアが生まれ、楽しく感じられるのではないかと思います。

今回の別府の展示で、たくさんの人とつながることができ、思い出深い作品になりました。



塩田千春
Chihiro Shioya

※2022年8月5日(金)に
開催した関連イベント
「塩田千春展『巡る記憶』
開幕記念トーク」より、
一部抜粋

Chihiro Shioya Berlin 2020
Photo by Sunhi Mang



事業報告

都市間交流事業 連携事業

市町村連携事業

文化団体連携事業

事業報告 都市間交流事業 市町村連携事業

玖珠町

佐伯市

日本童話祭と久留島武彦の作品を通じた子どもたちの異文化交流

開催日／小学生相互交流授業: 2022年4月27日(水)／
日本童話祭: 5月5日(木)
会場／久留島武彦記念館、三島会場(玖珠町大字森)、
河川敷会場(玖珠町大字帆足)
来場者数／25,000人 オンライン3,000人
主催／日本童話祭実行委員会

第73回日本童話祭では、現地でのイベントに加えて、オンライン童話祭として、YouTubeによるライブ配信を実施。県内の韓国出身留学生による会場リポートや、玖珠町森中央小学校と韓国慶州市皇城(ファンソン)初等学校の児童が、久留島武彦の名作「トラの子ウーチャン」のパネルシアターを通してオンライン交流をした様子などを紹介とともに、玖珠町のPR動画を韓国に向けて配信しました。



日韓交流事業in佐伯市

開催日／2022年7月8日(金) 日韓弦楽デュオ1993 from Berlin、
9月24日(土)～11月27日(日) 佐伯市こどもミュージカル×
慶州市ソンドドン子供合唱団の日韓交流事業、
9月24日(土) 日韓フェスティバルin佐伯
会場／さいき城山桜ホール、INTERFALL COFFEE(韓国慶州市)
来場者数／約12,520人
主催／佐伯市東アジア文化都市実行委員会、
佐伯市こどもミュージカル実行委員会

ベルリン在住でオーケストラ団員として演奏活動をしている佐伯市出身の西田悠氏(ヴァイオリン)と韓国出身の金賀教氏(チェロ)による弦楽二重奏の演奏会「日韓弦楽デュオ1993 from Berlin」を開催。日本と韓国の伝統的な曲や現代の人気曲なども演奏し、たくさんの聴衆に囲まれ、盛會となりました。

韓国料理や韓国コスメ、韓国グッズの販売、K-POPダンスなどを楽しむことのできる日韓交流イベント「日韓フェスティバルin佐伯」を開催。市内外の若者を中心多く韓流ファンが訪れ、韓国の食やダンスなどの文化を楽しみました。

また、佐伯市こどもミュージカルが慶州市ソンドドン子供合唱団を招聘し、ステージイベントで朝鮮民謡のアリアンを合唱合唱するなど、慶州市との交流を図るとともに、慶州市を訪問し、伝統文化などを学ぶことで国際理解を深め、継続的に交流を深めていく機運を醸成しました。



うすきまちなかアート!～東アジアを想う～

開催日／2022年5月31日(火)～11月13日(日)
会場／八町大路、白杵市龍光交流プラザ、サーラ・デ・うすき、
大分県立白杵支援学校
来場者数／約10,000人
主催／元気のアート!実行委員会、白杵市教育委員会



アートを通して人と人の出会いの場を創出し、障がいのあるなしにとらわれない「共に生きる」地域社会を目指すことを目的に、韓国慶州市の支援学校「慶州市ギヨンビ学校」と白杵支援学校の子どもたちが、絵画を通じた国際的な交流を行いました。まちの風景や文化財等の写真を交換し、その写真をもとにお互いの学校で絵画作品を作成し、うすきまちなかアート会場で展示しました。今回のオンライン交流によりお互いの地域の魅力や文化を知ることができ、理解を深めることができました。

知りたい! 作りたい! 韓国・慶州の食!

開催日／2022年8月～12月(8月10日(水)、9月13日(火)、
14日(水)、12月16日(金))
会場／野津中学校、白杵高等学校
来場者数／146人
主催／白杵食文化創造都市推進協議会



海外の食文化に触れ、多様な食文化の理解と国際交流を深めるために、慶州市で食べられている料理の教室を市内の子どもたちを対象に開催しました。

大分県に留学経験のある慶州出身の方によるオンラインでの講演会や、キンバなどをつくる調理実習を実施。また調理実習に参加した高校生の中で「フードデザイン(食関連等の学習)」を選択する生徒が、市内飲食店で販売する白杵の食材を使った韓国風スイーツメニューを23品考案。慶州市との交流や学びから生まれたメニュー2品が商品化され、貢献な経験となりました。

白杵市

豊後高田市

花とアートの岬 長崎鼻 オンライントークイベント

開催日／2022年8月30日(火)
会場／長崎鼻リゾートキャンプ場内
「不思議な自然と人の美術館」
来場者数／オンライン66人
主催／国東半島カルチャーツーリズム推進事業
豊後高田市実行委員会



アートディレクターの山出淳也氏を進行役に迎えて、2021年から2022年度に長崎鼻に新たに加わったアート作品を制作した3名のアーティストとともにトークセッションを行いました。「太陽と坐る」を制作した木村崇人氏、「国東半島のラクダ」を作成した淀川テクニック氏、「One Wild Day」を制作した鴻池朋子氏がそれぞれの作品のコンセプトや、制作途中の写真を楽しんで紹介しながら、長崎鼻への想いや魅力などを語りました。

また、韓国慶州市宇洋美術館の学芸士 イ・ジウ氏が、韓国の現代アートや長崎鼻にあるチュ・ジョンファ氏の作品「色々色」などについて発表しました。

長崎鼻や豊後高田市の今後についてなどのディスカッションも行われ、アートへの想いがあふれる時間となりました。



宇佐市

宇佐市・慶州市友好親善都市締結30周年記念行事

開催日／2022年10月7日(金)・8日(土)、
10月24日(月)～11月4日(金)、8日(火)
会場／鳳凰台広場(韓国慶州市)、宇佐ホテルリバーサイドほか
来場者数／1,580人
主催／宇佐市、韓国慶州市

宇佐市・慶州市友好親善都市締結30周年を記念して、慶州市で開催された式典等及び祝祭行事に参加するため、宇佐市長はじめとする市公式訪問団ほか文化協会会員など17名が慶州市を訪れました。

また、慶州市長、慶州市議会議長及び韓国美術協会の関係者など、慶州からの訪問団20名を宇佐市へ招き、記念行事を開催。両市長からあいさつの後、鏡開きや記念品の交換などを行いました。

そのほか、宇佐市役所本庁1階多目的ホールでは、両市友好親善30年の交流の歴史について、年表とともにパネル展示を実施し、多くの来賓者に見ていただきました。



日田市

威徳大学の学生との伝統工芸文化交流イベント

開催日／2022年11月11日(金)～13日(日)
会場／日田祇園地域産業振興センター、
日田祇園山鉾会館 ほか
来場者数／110人
主催／日田市

韓国慶州市から大学生を中心とした団体を招聘し、日田市の伝統芸能・工芸の体験を通じた交流事業を実施しました。訪問団は、ユネスコ無形文化遺産に登録された「日田祇園の曳山行事」についての説明を受けた後、日田祇園囃子保存会による日田祇園囃子の演奏を鑑賞しました。また、伝統工芸品である日田下駄の縫緝付体験では、一人一足ずつ日田下駄の製作に挑戦しました。

「日田もりあ下駄い」とのダンス交流では、慶州市からの訪問団が日本の武士のコスプレをしてステージに登場し、会場を盛り上げました。



中津市

パク・ソンヨン展「青い瞑想・光、日常と出会う」

開催日／2022年12月10日(土)、16日(金)、
17日(土)～2023年1月15日(日)
会場／中津市大村記念美術館
来場者数／450人
主催／中津市教育委員会

韓国慶州市のアーティストパク・ソンヨン(朴直映)氏を迎えて、展覧会を核とする光のアートイベントを開催しました。パク氏は中津市内に2週間滞在し、作品制作および展覧会の準備を行いました。12月10日にはワークショップ「特別な日常と出会う」を開催し、15名の参加者がアーティストとの対話を楽しみながら、韓国の伝統的な「韓紙」を用いた提灯作りに取り組み、完成した提灯を会場に展示しました。また、このワークショップにあわせて、参加者の肖像写真を撮影し、後日そのイメージを用いた作品を制作しました。12月16日には、オープンスタジオとして美術館での作品制作や展示準備の様子を一般公開し、来館者はアーティストに質問するなど、興味深そうに見学しました。

展示公開した会場は、光を効果的に使った作品によって幻想的な雰囲気を包まれ、若い世代を中心多くの方々が訪れました。

本イベントを通じて、普段目にすることのできない韓国の現代アートに触れる機会を創出することができたと同時に、ワークショップやオープンスタジオなど、市民がアーティストと直接交流する機会もあり、日本と韓国の文化交流を図ることができました。



Photo: LEE SOONPYO